



校長会



No.46

三重県小中学校長会 広報 第46号

●発行●三重県小中学校長会 津市桜橋 2-142 三重県教育文化会館内 TEL 059-227-7011 E-mail info@mie-kochokai.com
●編集●三重県小中学校長会 広報委員会 ●印刷●光出版印刷株式会社 松阪市久保町 1885-1 TEL 0598-29-1234



私の学校づくり



学校改善（イノベーション）

桑名市立大山田北小学校

校長 平野 浩数

私の勤務する大山田北小学校は、桑名市の外国人児童生徒教育の小学校の「拠点校」であり、桑名市では最も外国籍児童が多く在籍し、通学してきている。多くは、ブラジル国籍やペルー国籍で、児童だけでなく保護者も日本語の理解が十分でない人が多い。

そんな特色のある本校では、十年以上前から大切な行事の一つとして、学校全体で「国際交流集会」を開催している。

この行事では、普段は自信を持って前に出ることを読めらう外国籍児童が、積極的に活動し、自分の国に誇りをもてるようになることを、学校全体で応援している。

しかし、本校は新興住宅地で児童数が増え続けており、これまでのように全体会や交流会の場所が確保できない状況になってきたことが、職員からの反省に出されてきた。このことを受け、この機会にミドルリーダーを中心に、行事自体を見直そうと話し合いを重ねてきた。

そして、本来の目的である、「児童自身が自分の国に誇りを持つこと」や、「児童だけでなく教師自身も、外国籍児童の気持ちにもっと寄り添う機会とすること」を大切にしながら、運営の形態や時期、方法を見直し、二日間に分けて実施することにした。

このことで、子どもを中心にし、大切な部分は見失わないようにしつつ、職員の考えを出し合い、変える部分は大胆に変えていくことが、本当の「学校改善（イノベーション）」であると、改めて感じるようになった。

今後も、今回の改善活動のように、職員が積極的に参画し、組織（チーム）で学校運営できることをめざしたいと思っている。

会長挨拶

不易と流行



三重県小中学校長会

会長 川合 陽一郎

四月二十五日の三重県小中学校長会総会で会長職を拝命することになりましたが、日々その重責を感じております。三重県小中学校長会の組織力の強化と諸活動の活性化のために微力ではありますが、尽力する覚悟ですので、ご支援いただきますようお願いいたします。

本年度は、学校の統廃合の影響を受け十五名の会員減となりました。三百五十六名の小学校長及び義務教育学校長、百五十名の中学校長、あわせて五百六名の会員の皆さんとともに本県義務教育の振興を図っていききたいと思います。

三重県小中学校長会の強みは、小中学校の校長が緊密に連携して取り組めることです。それは、小中学校長会と中学校長会が統合し、事務局の仕事量こそ増えましたが、機動力のある強い組織として、小学校と中学校に共通する教育課題解決のために協力・協働し、大

る心、人権を尊重する心、自然を愛する心など、どの時代であつても大切にしなければならぬものです。

私の教員生活は、中学校三年生の担任から始まりました。採用された昭和五十六年は、少年非行の第三のピークを迎えたところで、対教師暴力等との戦いの日々でした。教育の「不易」にあたる大切なことを生徒に十分に伝えられない苦しい日々でした。自分にとって学校の荒れの克服が、当面の最大のミッションでした。そして、授業を成立させるためには、魅力ある授業が必要でした。よく分かるために授業の工夫をし、さらに研究会にも所属し、授業研究にも積極的に取り組みました。

今、学校経営をする立場になつても、学級崩壊や生徒の荒れという状況をつくらない決意だけは強くもっています。その思いは、自校の教職員にも伝えていきます。全ての生徒が安心して学べる学校づくり、確かな学力が定着する授業づくり等、当たり前のことを当たり前にやっていくことも教育の「不易」に当たるように思います。

しかしながら、最近の社会の変化は急激であり、従来の方法だけでは教育の「流行」に対応できなくなつてきています。知識基盤社会では、新しい知識や情報・技術が、社会のあらゆる領域での活動の基盤として重要になってきています。また、グローバル化や情報化が急速に発展し、社会が大きく変化し続ける中で、多様化、複雑化した課題に対応する力も必要となつてきています。さらに、人工知能の急速な進化によって、子どもたちの六十五％は将来、今は存在しない職業につくという予測や、今後十年から二十年程度で、半数近くの仕事が自動化されるという予測もあります。

このような状況を背景に、文部科学省は、平成二十九年三月三十一日に新学習指導要領を告示しました。

また、来年度から小学校で「特別の教科道徳」が始まります。平成二十九年度は、その移行期間や新学習指導要領の周知期間となります。校長は、教育委員会からの指示を待つて先行実施するのではなく、子どもたちにとってどのような学びを通せば次の時代を生き抜いていく力となるか模索し、そのことを念頭に置いて、先見性を持つた独自の先行実施を行うべきだと考えます。

三重県小中学校長会は、政策的提言能力を備えた職能研修団体として確固たる地位を築いています。各研究大会においても新学習指導要領についても真摯な議論をお願いし、円滑に完全実施できるよう、校長会としてリーダーシップを発揮していきたいと考えています。

平成 29 年度 三重県小中学校長会 役員・監事及び事務局

◇会長（兼中学校部会長）

川合陽一郎【津市・橋北中】

◇副会長（兼中学校副部会長）

深見 充弘【松阪市・殿町中】

室谷 隆子【熊野市・入鹿中】

◇幹事（兼中学校部会幹事）

白木 俊行【桑名郡・木曾岬中】

松井 幸生【志摩市・安乗中】

廣岡 昭貴【伊賀市・緑ヶ丘中】

◇副会長（兼小学校部会長）

宇佐美好孝【四日市市・桜台小】

◇副会長（兼小学校副部会長）

小川 国彦【鈴鹿市・井田川小】

小野 礼子【鳥羽市・弘道小】

◇幹事（兼小学校部会幹事）

落合 正史【津市・敬和小】

西村 茂【多気郡・日進小】

川岡加寿子【名張市・桔梗が丘南小】

◇監事

中井 克佳【北牟婁郡・潮南中】

越智 亨【亀山市・亀山南小】

《事務局》

◇局長 大西 学

◇次長 森田 正美

◇局員 宮田 典子

委 員 会 報 告

学校経営委員会

委員長 藤井 英一



この委員会に入ってみて、初めて分かったことがあります。それは、大規模校には大規模校なりの、小規模校には小規模校なりの要望があることです。また、都市部の学校とへき地の学校についても同様に言えることです。

私たちは、それらの要望に軽重をつけることなく集約し、県教委へ具申していきたいと考えています。五十五パーセントシーリングという極めて厳しい財政事情の中、あまり快い回答は期待できませんが、「より良い学校経営」の実現、ひいては「信頼される学校づくり」に少しでもつながれば、という思いで活動していきます。どうぞ、会員皆様方のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

進路指導委員会

委員長 岡 俊 晴



五月十六日に第一回進路指導委員会を開催し、昨年度の活動の成果と課題をもとに、本年度の活動

方針・活動計画について協議しました。昨年度までにおこなわれた、選抜制度等についての抜本的な改革も含めた様々な議論の経過を受け止め、県内各地域の状況に応じた柔軟な姿勢を大切にしながら、改めて生徒や保護者の立場に立った現行制度の課題改善に向けて意見交換をさらに進めていきたいと考えています。

一、活動方針

(1) 児童生徒理解を深め、個性の伸長を図り、自己実現を目指す進路指導を推進します。

(2) 県内各小中学校間の情報交換に努めます。

(3) 三重県教育委員会・三重県高等学校長協会・三重県私学協会・関係機関と協議し、現行入学選抜の課題や入学選抜制度、高校活性化問題等の改善に努めます。

(4) キャリア教育についての研修に努めます。

二、活動計画

(1) 五月十六日(火)

① 活動方針・活動計画の決定

② 現行選抜制度の課題について

(2) 六月十三日(火)

① 進路指導に関わる要望のまとめ

② 現行選抜制度の課題について

(3) 七月二十四日(月)

① 要望書への県教委回答と質疑

② 現行選抜制度の具体的な検証

(4) 九月二十一日(木)

① 現行選抜制度の具体的な検証

平成29年度 研 究 大 会

★第54回三重県小学校長教育研究大会

- ◇日時 平成29年7月27日(木) 午前：全体会 午後：分科会
◇会場 全体会 三重県総合文化センター 中ホール
分科会 三重県総合文化センター内各会場
三重県総合博物館レクチャールーム
- ◇研究主題 「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く
日本人の育成を目指す小学校教育の推進」
一夢の実現に向けて主体的・協働的に学び、共に未来を切り拓こうとする子どもを育む学校経営の推進」
- ◇講演会 講師：松浦武二郎記念館学芸員 山本 命
演題：『多文化共生の先駆者 松浦武二郎』

★第54回三重県中学校長研究大会

- ◇日時 平成29年8月22日(火) 午前：全体会 午後：分科会
◇会場 全体会 三重県男女共同参画センター 多目的ホール
分科会 三重県総合文化センター内各会場
三重県総合博物館レクチャールーム
- ◇研究主題 「社会を生き抜く力を身に付け、
未来を切り拓く日本人を育てる中学校教育」
- ◇講演会 講師：百五銀行地域創生部顧問&まちの宝創造アドバイザー
皇學館大学現代日本社会学部
教授 岸川政之
演題：『未来の大人たちに私たちができること』

平成29年度 三重県小中学校長会・理事一覧

郡市名	小学校理事		中学校理事	
	名前	所属校	名前	所属校
桑名郡市	塚脇 恵子	七和小	片山 哲哉	光陵中
いなべ郡市	藤本 昭彦	三和小	井上 征樹	東員第二中
四日市市	小林 育生	楠小	西山 達	富田中
三重郡	植松 佳子	川越北小	吉本 斉	八風中
鈴鹿市	池田 憲彦	白子小	森本 雅夫	天栄中
亀山市	越智 亨	亀山南小	花岡 繁治	亀山中
津市	小宮 敬徳	藤水小	山本 潔	一志中
松阪市	山口 哲生	第一小	藪 晃明	三雲中
多気郡	佐野 稔	川添小	藤原 一成	大台中
伊勢市	山本 究	厚生小	中村 泰彦	港中
度会郡	奥村 典保	外城田小	小倉 宝	大宮中
鳥羽市	藤井 英一	菅島小	濱地 圭司	長岡中
志摩市	岩谷 昌弘	甲賀小	厚見 和人	東海中
伊賀市	岩寄 清悟	友生小	川端 紀生	上野南中
名張市	稲森 理伸	比奈知小	西山 尚吾	南中
尾鷲市	中村 秀久	向井小	松島 功城	三船中
北牟婁郡	加藤 浩	三浦小		
熊野市	伊藤 聡	五郷小	竹原 巧	相野谷中
南牟婁郡	下 敏朗	神志山小		

(5)十月三十一日(火)

①キャリア教育の視点に立つ研修

②現行選抜制度の改善について

(6)十一月二十八日(火)

①本年度活動の反省と課題

生徒指導委員会

委員長 西山 尚吾



現在、学校における生徒指導等の諸課題は、きわめて多岐にわたるものとなっています。基本的な生活習慣にかかわる日常の生徒指導上の問題はもとより、不登校や虐待、ネットモラルやいじめ、暴力行為などの諸問題も、依然として深刻な状況が見られます。これらは、どの学校においても重要な課題となっているところです。特に近年は、非行の低年齢化がすすみ、小学校においても生徒指導対応が課題となってきた状況です。そのような多岐にわたる課題を解決していくためには、教育と福祉の連携を基盤とした、きめ細かな且つ積極的な生徒指導を行っていく必要があると考えます。そこで生徒指導委員会としては以上のことを踏まえ、昨年度の課題を検討し、以下のように活動計画を

立てました。

一、活動方針

(1)生徒指導等の諸課題の解決に向けた取組と支援のあり方を追求します。

(2)地域及び関係機関との連携を密にし、互いの交流を深めるとともに、安全・安心な学校づくりに努めます。

(3)県内各小中学校間の情報交流を行い、県校長会及び各市町の校長会にも発信していくような取組を進めます。

二、活動計画

(1)生徒指導委員研修会

(2)十一月九日(木)実践交流会

*「実践交流会」では、県内各小中学校、中学校から「実践校二校」の発表をお願いすることとなります。

(3)十一月二十日(月)県内各校間の情報交流及び委員会活動のまとめ

特別委員会

委員長 吉本 斉



「時機、来る」

先日、本校の学校運営協議会での席上、ある委員さんが「学校の

先生は九時〜十七時で、夏休み等の長期休暇もあって良いなあ、とつい最近まで思っていた。」と発言されました。それが一般的な認識なのかも知れません。

そんな中、最近になってやっと教職員の勤務のあり方について、疑問を投げかける世論が起ってきました。

国や県・市町教育委員会も改善に向けて本気で動き出しつつあります。

時機が来たのです！

子どもたちにとって最大の教育環境は教師自身です。その教師が疲弊しては充実した教育活動を展開していくことはできません。現場を預かる管理職として、私たちもこの機会を逃すことなく、総勤務時間の縮減に向けて関係機関と連携を強め、推し進めていかなければなりません。そこで、以下の活動方針のもと、調査等を通して見えてきた改善の具体的方策について、三重県教育委員会への申し入れ及び各機関への働きかけを依頼していきたいと思えます。

一、活動方針

(1)子どもたちが充実した学校生活を送るためには、教職員が心身ともに健康で、ゆとりを持って子どもと向き合えることが大切であるとの観点から、教職員の過重労働の実態を把握し、その主要因を明らかにしていきたいです。

(2)教職員の総勤務時間の縮減に向けて各校・各地域の具体的・先進的な取組を調査・把握し、全県的な取り組みとなるよう、改善に向けた方向性を提言します。

現在、各校・各地域で行われている縮減への取組を全県的な運動へと繋げていきたいと思えます。

広報委員会

広報委員長 松島 功城



年度初めの慌ただしさが落ち着いたのも束の間、校長先生におかれましては、新たな教育課題を踏まえた学校経営の実践にご多忙な日々をお過ごしのことと存じます。

私たち広報委員会は、そのような校長先生方の一助となるよう、各校における様々な教育課題への対応や実践、郡市校長会の活動の様子などをお伝えしていきたいと思えます。情報交換・情報収集の場として、延いては、三重県小中学校長会の連帯感や絆をより深めていくためにも、お役に立てればと考えております。

このような思いをもとに、第一

回広報委員会において、本年度の活動方針・活動計画について協議し、以下のように決定しました。

一、活動方針

(1)広報活動をととして、会員相互の連携意識の更なる向上を図る。

(2)会員の声を幅広く掲載するとともに、写真を充実させ、親しめる紙面づくりに努める。

(3)年三回発行し、情報提供に努める。

二、活動計画

(1)七月、十二月、三月に会報を発行する。

(2)編集内容は、①「私の学校づくり」②「今日の課題の克服に向けて」③「特別寄稿」④「新任校長の声」⑤「ちよつとい話」⑥「あの時、あの人」⑦「私の薦める一冊」⑧「随想」⑨「研究大会参加報告」⑩「地区校長会だより」⑪「本部役員だより」とする。

(3)紙面構成は、八面・カラー印刷。

(4)会員への執筆依頼は、当該地区の理事を通じて行う。

●原稿募集

会員の皆様の投稿をお待ちしています。なお、内容・字数等につきましては事務局へお問い合わせ下さい。「校長会みえ」について、「意見・ご要望があればお聞かせ下さい。」

三重県小中学校長会 広報委員会

特別寄稿

新学習指導要領の円滑な実施に向けて



三重県教育委員会事務局

教育長 廣田 恵子

〔学習指導要領の改訂〕

三重県小中学校長会の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また、平素より小中学校教育の充実・発展のため、日々ご尽力いただき、心から感謝申し上げます。

既にご承知のとおり、この三月に学習指導要領の改訂が告示されました。今後、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して授業改善を進めるとともに、小学校の中学年での「外国語活動」、高学年での「外国語科」の導入や、先行実施となる道徳の特別教科化に対応していく必要があります。新学習指導要領の円滑な実施に向けて、本年度から説明会も開催しますので、各学校において的確に対応されるよう準備をお願いいたします。

〔学力の向上〕

さて、昨年の全国学力・学習状況調査では、教科の正答率、無解答率が改善されました。児童生徒

質問紙でも、子どもたちの自己肯定感が高まってきていることがデータとして表れ、子どもたちが粘り強く取り組み、「やればできる」という思いが形になってきています。これは、皆様を中心に学校が組織全体で日々取り組んでいただいている成果であると考えます。

引き続き、学校では授業改善の取組を深め、家庭・地域では生活習慣の確立等の取組を拡げ、対応が難しい問題については地域で支えていただくという方向性を共有し取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。

〔命を大切にすること〕

一方、昨年度、県内において命にかかわる大変痛ましい事案が相次いで発生したことを大変重く受け止めています。改めて、児童生徒同士の話し合いや協力し合う活動などを通じ、多様な考え方に触れ、お互いを認め合うことで自己肯定感を高めるなど、児童生徒理

解に基づいた命を大切にする教育に、一層力を注いでいただきますようお願いいたします。併せて、教職員一人ひとりが子どもたちの発するサインを受け止める感度を磨くとともに、スクールカウンセラー等の専門家の協力を得ながら、早期から組織的に対応するようお願いいたします。

〔働きやすい環境づくり〕

こうした様々な教育課題に取り組んでいくためには、今大きな課題となっている教職員の多忙化の解消に向けて、働きやすい環境づくりを進める必要があります。特に、総勤務時間の縮減については、県内すべての学校で統一して取り組む項目や、各学校での時間外縮減目標の設定等、具体的な取組を市町教育委員会や学校と一体となつて進めていきたいと考えていますので、皆様にはリーダーシップを発揮して取り組んでいただきたいと思います。

〔おわりに〕

県教育委員会としましては、子どもたちの希望と未来のために、市町教育委員会との連携をより深め、教育現場を支援してまいりますと考えていますので、よろしくお願いたします。

最後になりますが、三重県小中学校長会の益々のご発展と皆様の一層のご活躍を祈念いたします。

平成28年度末
退職校長感謝の集い

平成29年4月8日(土) プラザ洞津



感謝状贈呈



平成28年度末 退職校長感謝の集い



実行委員会代表挨拶



退職校長代表挨拶

新任校長の声

地域とともに育つ 尾呂志学園

御浜町立尾呂志学園小中学校
校長 竹本 和 拡



「地域とともに育つ尾呂志学園」これは、通勤路脇に掲げられた看板です。

尾呂志学園小中学校は、小学生十二名、中学生十三名の自然豊かな山間部にある学校です。早くからコミュニティスクール制度を導入し、学校運営協議会を中心として地域の教育力を活用しながら教育実践を行っている学校でもあります。

今まで小学校での勤務しかなかった私にとって、初めての中学校、初めてのコミュニティスクール、そしてもちろん初めての校長と不安いっぱいスタートで

した。
四月から、二ヶ月程が過ぎた今、不安が完全に消えたといえはうそになります……

しかし、玄関で毎朝元気に挨拶をしてくれる子どもたちの声を聞いたり、昼休みには小学一年生から、中学三年生までの全員がともも楽しそうにドッジボールをする姿を目にしたり、また、全校での米作り活動や児童会、生徒会でのいろいろな行事を通して子どもたちと日々触れ合ったりすることで、自分の中で小学生、中学生といった区別がだんだん消えていると感じています。

また、先日は、第一回学校運営協議会を行い、地域の方々の学校教育への熱い思いを改めて感じたところでもあります。

尾呂志学園に通うすべての子どもたちが地域の多くの方々に協力をいただきながら、毎日豊かな学びができるよう、そして地域の人々が子どもたちに尾呂志の未来を託せることができるよう努力したいと思っています。

整えることを大切に

四日市市立海蔵小学校
校長 松月 雄 一



校長としてそのためにどんなことをすればよいのか、どんなことができるのか、これからも自問自答の日々が続くと思います。
しかし、「地域とともに育つ尾呂志学園」であるために自分のできることを精一杯頑張ろうと、通勤路脇の看板を読み返ししながら学校に向かう毎日です。

下校する一年生と一緒に橋を渡っていたとき、ふと川に目をやると両岸に連なる満開の桜。そこは、四日市有数の桜の名所、海蔵川。自転車にまたがって、登校指導がてら町を走ってみると、工場の庭先に並べられた、たくさんのお鍋や器。そこは、四日市が世界に誇る萬古焼の工房。

四日市を代表する文化と自然のある、素敵な町の小学校に新任校長として着任しました。

日々の教室巡り散歩のお供は業務用フロアワイパー。その名はサスケジュニア。我が家の柴犬サスケにちなんで名付けました。

昇降口前の廊下の砂を掃き出し、隅にたまった埃を拭き取ったりしながら歩いていると見えるいろいろな姿。真剣に課題に向かう子。隣同士、顔を寄せ合って聴き合っている子。いやなことでもあったのか、机に突っ伏している子。子どもの話にじっと耳を傾ける教師。休み時間には「掃除をしてくれてありがとうございます」と、お礼を言ってくれる子。トイレのスリッパをそつとそろえる子。

昇降口前の廊下に落ちた砂。かかとの踏まれた靴。踊り場の隅にたまった埃。斜めになつて落ちそうな雑巾。気になることもいろいろ見つかります。これもサスケジュニアのおかげです。

子どもたちが安心して生き生きと過ごし、落ち着いて学習に取り組める学校を目指して環境を整えていくことは、校長の大事な役割の一つと考えています。教室で子どもと直接関わることはなかなかできませんが、校長だからこそできることがあるはずですよ。

今日も子どもと職員の素敵を、そして私にできることを探しながら、相棒、サスケジュニアを伴っ

て校内を散歩します。人が環境を作り、その環境が人を育てると信じて。
あつ、そろそろ取り替え用シートを注文しないと……

「地域」の深さを知る

南伊勢町立南島西小学校
校長 小山 和 彦



「地域」は学校にとって大切なパートナーであり、子どもたちにとっては生活の場です。

南伊勢町立南島西小学校は、十数年前、旧南島町と旧南勢町が合併してできた町の、最も西に位置する学校です。町の過疎化はすさまじく、いわゆる高齢化率、六十五才以上の方は町民のほぼ五十%、県内トップです。

五月下旬の午前十時頃、月に一回の校長通信を各地区に配っていたときのこと、とある集落で道端に愛車の軽トラを停めたら、黒いウェットスーツを上半分だけ脱いだ男の方が家の前でしゃがんでいます。「校長です。」挨拶もそこ

そこに、「もう潜ってきたんですか?」と尋ねました。ウェットスーツには擦れや穴もあり、そこそこの年季が入っています。男性は私より年齢は上なのですが、体は縮まっています。「朝からちよいと見て来たんや。」アワビとサザエを獲ってきたようです。様子から、それを生業にしているほどではなく、ご本人曰く「おかずを増やす程度」だそうです。

私は、前任も町内の小学校で、私自身もこの町民ですが、まだ海水も冷たい五月の朝から、「ちよつと」潜ってくる人は周りにはいませんでした。

私の町には、長い海岸線に沿って「同じような」集落がずっと続いていると思っていました。ところが、定期的なものに加えて、これまで以上に密に地域を巡ると「同じよう」に見えても、その一つひとつの集落にいろいろな方が生活されていることが見えてきます。それは学校運営に生かせることもであり、私にとっては楽しいことでもあります。

「地域」は、学校を運営する主体として、その位置づけがますます重要視されているところです。地域の深さを知って、今後も精進していきたいと感じたところです。



本校教職員に感謝!

志摩市立浜島中学校
校長 山崎 長敏



本校は、三クラス、全校生徒七十一名の志摩市内で二番目に小さな中学校です。

ある日のことです。「校長先生、カンパをお願いします。」と親睦会担当者から言われ、「何のカンパ?」と聞くと、「〇〇先生のバスデーケーキを買うためです。」との返答があり、何も考えずに〇〇円をカンパしました。

数日後、職朝での連絡が終わると、「〇〇先生、誕生日おめでとう!」との発声とともにケーキが運ばれ、ローソクに火がともされ、生徒に聞こえないような声でのバスデーソングが歌われ、一連の誕生日の儀式が数分間行われました。本人の目にうつすらと涙が

浮かび、私自身も温かな気持ちを感じました。(ケーキは、家への持ち帰りとなりました。)

これはほんの一例ですが、本校教職員は非常にチームワークが良く、自分の役割を超えて、他の職員のために仕事を行おうとする気持ちがあり、お互いを思いやる気持ちに溢れている集団です。職員室では、生徒のこと、クラスのこと、プライベートなことなど、多岐にわたって常にワイワイと空き時間を過ごしている声が校長室まで聞こえてきます。子どもたちがこんな教職員の姿を見て、「先生達は仲がいいね!」と言い、その雰囲気が生徒の落ち着きや安心心につながり、学校全体が優しい雰囲気です。日々が過ぎていきます。

今、教職員の多忙化が叫ばれている中、本校職員も日々の業務、部活指導など、多忙な日々を送っています。しかし、職場の温かさ、仲間への信頼感、思いやりなどから、多忙ではあるが充実した学校での生活を送っているように感じています。仲間を思いやり、仲間から信頼される集団、そんな職場であることが、子どもの教育に良い影響を与え、教職員もより一層教育に邁進できる心と環境が作られていく。私たちの仕事にとって、職場環境がいかに大切を想うこ

とができ、こんな職場で日々の仕事ができること、本当に本校の職員に感謝しています。

「幸せ」の匂い

多気町立勢和小学校
校長 達 正 弘



昨年の秋、String Work2016 autumn と題した、弦楽器の展示会の案内が家に届いていました。

送り主は「加藤穂高」。「ご都合よろしければお越しください!」とのメモ書きがありました。

二十八年前になるでしょうか。私は妹を担任し、お母さんを通じて最近の彼の活躍を知っていました。彼は絵を描くのが好きなおとなしい感じの子でした。

彼は楽器作りの職人を志して米国で修行し、今は「知る人ぞ知る」世界も認める凄腕のインレイ作家です。「インレイ」というのは、楽器に施す貝細工のことです。

一時間ほど昔話を花を咲かせた後、私のギターの調子を診てくれました。彼はなぜか真つ先にギターのホールに顔を近づけ、くんくん

と匂いを嗅ぎだすのです。「先生、このギター、モンタナ工場で作られていますね」「匂いでわかります。僕この工場で行っていたので!」こんな、偶然があるものでしょうか?「ギターの状態はいいですよ。気になったら僕がいつでも直します。妹にも先生と会ったこと知らせなきゃ!」

私は固い握手と記念写真を撮って会場を後にしました。改めて思ったのは、人間の五感の記憶は凄いなあということ。そして、かわつた子どもたちが頑張っている姿を見るのは、何より嬉しいということです。

その一時間後、もっと驚く事件に出会いました。私はその日、白山町であるコンサートに行きました。会場はもう大勢の人で賑わっていました。すると突然、スタッフの一人の女性が近寄ってきて「あの、ひよつとして達せんせ!」「あつそうですが!なんと、さつきまで会っていた「穂高」のお母さんでした。これも二十八年ぶりの再会でした。さつき二人で写真を撮って「穂高」にサプライズメールをしました。大袈裟かもしれませんが、私たちの仕事や生活から得る「幸せ感」というのは、ひとえに人と人とのつながりの中にあるような気がしてなりません。

地区校長会だより

伊賀市中学校長会

伊賀市は、平成十六年に上野市、阿山郡伊賀町、島ヶ原村、阿山町、大山田村、名賀郡青山町の一市三町二村が合併、人口約九万三千人の市です。合併当初は、十二校であった中学校数も現在は、統合の結果十校となっています。本年度は、その内の半数にあたる五名（内二名は女性）の新任校長を迎えたフレッシュな校長会です。

学校規模は、全校生徒数五百名を超える都市部の学校から全校生徒数五十名に満たない農山村部の学校まで、正に十校十色です。市の教育理念「一人ひとりが輝くこと」のもと、「一人ひとりが心豊かで健やかに成長・自立し、ともに輝けること」を目指し、それぞれの地域の学校として特色ある学校づくり・教育に努めています。

伊賀市では、小中それぞれ校長会を組織していますが、活動は主に伊賀市小中学校長会として二十一小学校長と十中学校長の三十一名で行っています。四つの研究委員会、「教職研究委員会」「教育環境研究委員会」「教育課程研究委員会」「人権同和教育研究委員会」



のいずれかに所属し、今日的な教育課題の解決にむけた調査・研究や研修に努めています。年間九回の定例会を開催しています。定例会では、市教委からの所管事項やそれぞれの担当からの報告、学校運営に関する今日的課題についての意見や情報交換を含む全体会と小中の校種別部会を行っています。

中学校部会では、さまざまな課題や各校の取組について、協議や情報交換を行っています。今後も、お互いが気軽に相談でき、ヒントや元気がもらえる関係を大切に、共通する諸課題の解決に努め

伊賀市の教育の充実と発展を目指していきたいと考えています。

松阪市小学校長会

○松阪市小学校長会基本方針

本会では、松阪市の教育の振興を図るため、四つの基本方針を掲げて取り組んでいます。

①松阪市教育委員会との連携

月一回の定例会では、市教育委員会からの所管事項の伝達を受け、諸課題についての協議や情報交換を行い、部会としての考え方や意見を各校の教育に反映させています。

②学校間の連携

本会では、地域を五つに分けたブロック別校長会議・幼小中が連携した中学校区別校長会議が組織され、各校の活動や状況を出し合う情報交換の場となっています。この会では子どもや保護者、地域の実情がよく分かることもあり、抱える課題や悩みを出しやすく、特に新任校長にとっては、今後の学校運営に自信を持つて取り組むきっかけをもらっています。

③関係機関との連携

本会では松阪市の五十八団体と連携し、多視点から教育課題を明らかにし各校長に還流しています。

④部会の活性化と学校運営の深化

本会には四つの専門部があり、それぞれが研修を深めています。研究推進部では、職能の向上のため、具体的な研修を提案し推進しています。人権教育部では、管理職として人権意識を高め学校の人権教育推進のため研修会を開催しています。学校運営部では、毎年教育課題についてアンケート調査分析を行い、学校経営理念の深化をめざしています。組織運営福利厚生部では、心のリフレッシュと元氣回復のための提案を行っています。『校長元氣で学校元氣』の



秘訣を学ぶことができ、校長のパワーアップを図っています。

○夢を育む松阪の教育をめざして

以上四つの基本方針は、四つ葉のクローバーです。四つ揃って幸せな松阪の子どもを育成するため、会員相互も連携して、夢を育む松阪の教育をめざして取組を進めていきたいと思っています。

編集後記

新年度が始まって、春を感じる暇もなく暑い夏がやって来ましたが、各小中学校では、学期末を前に学習のまとめやプール指導・大会に向けての部活動など、慌ただしい日々をお過ごしのことと拝察させていただきます。

三重県小中学校長会広報「みえ」の第四十六号の発行に当たり、原稿の執筆依頼を快くお引き受けいただいた皆様方に、心より感謝申し上げます。

広報委員会では、今年も三回の広報「みえ」を発行させていただきました。会員相互の連携意識のさらなる向上を図るとともに、読みやすく親しみやすい紙面作りを努めていきたいと思っております。

今、学校現場では児童・生徒の学力や体力の向上はもとより、新学習指導要領の実施に向けての準備や教職員の総勤務時間の縮減など、校長として取り組まなければならない課題が山積しています。

校長会も市町を越えて、小中を越えて連携していく必要があると考えます。この広報「みえ」においても情報提供ができれば幸いです。ご支援・ご協力をお願いいたします。